

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492900135		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホームしまの憩		
所在地	三重県志摩市磯部町恵利原126-16		
自己評価作成日	令和 3年 10月 22日	評価結果市町提出日	令和3年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2492900135-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2492900135-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 11 月 9 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

機能訓練として日々歩行練習や立位の練習等を行ってもらう事により、ADLの低下を予防して行ける様に環境を整えています。  
外出が中々出来ない状況ではありますが、施設内での生活を少しでも楽しんでもらえる様におやつ作りや、レク等を工夫させてもらい対応しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍のため、利用者の外に出たいという根本的な要求には対応できていないということであるが、利用者が参加して楽しめるようおやつ作りやレクリエーション等を企画し、少しでも生活を楽しんでもらえるよう工夫している。また、定期的に理学療法士による訓練を受け、歩くことにも取り組んでいる。外出としては屋上に出たり、ゴミ出しの際に利用者と一緒に歩くように努め、少しでも外の空気を味わえるように支援している。一人ひとりが望むことを漠然とではなくテーマを決めて聞き取り、そのことの実現に取り組んでいる。一人ひとりが笑顔に満ちた生活となることを常に目指している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念はあるが、事業所理念を作れていない。会社理念もあまり把握できていない。	事業所理念は作られていないが、事務室には額に入った会社理念が掲示されている。会議等では笑顔のある生活を目指すべく、職員としての利用者への働きかけ等を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町外れにあり、面会や外出の機会が無いので、殆ど行えていない。	周囲には人家はないところであるが、管理者は運営推進会議を通して地域との繋がりを探っている。また、区長や職員の知り合い、社協に登録しているボランティアサークルとの交流を通して地域とのつきあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けてというのは難しいが、ブログ等を活用し、日々の様子を発信させてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面での開催にさせてもらい意見を頂ける様にしている。	コロナ禍のため会議自体は開けていないが、定例会議の月にはホーム内の様子をまとめた報告書を各委員に郵送し、その感想も毎回受け取り運営に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡等で相談・助言等もらえる様な体制を築いている。	志摩市職員からは、書面による運営推進会議に対して毎回意見を出してもらっており、書面会議も有意義なものとなるよう連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない様にケアを行うように研修を行う中で職員全員が正しく理解できるように取り組んでいる。	身体拘束は当然ながら、目下、スピーチロックに注意しようと定期的に研修会をして意識を高めるようにしている。また、職員トイレには職場内使用禁止用語を貼りだし、気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にならない様に職員全員が意識をしている。コンプライアンス委員による研修を行い、毎月事例検討や意見交換を行い、実践できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方はいるが、制度について学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者や家族と面談を行い、ホームについての説明をした上で、不安・疑問点等を確認し、理解・納得してもらえる様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては毎月要望を聞く機会を設け、意向の確認を行っている。要望はなるべく反映できるように職員間で共有している。家族には毎月の様子を報告させてもらう様にし、プラン更新時等家族への聞き取りも行う様にしている。	漠然として要望を訪ねても決まった返答しか返ってこないのが、テーマを決めて聞き取り、毎月、その要望を一枚の要望書に書き上げ、職員全員で認識し、実現できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で職員からの意見や提案を聞く機会を設けており、毎月1回は管理者会議で情報を共有できる様にしている。職員会議で意見を出しても解決に至らない場合もある。	毎月2回職場内で会議を開き、職員からの意見を聞き取るようにしている。その意見を管理者会議で取り上げ、課題解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設単位としては、職員皆で向上心を持って働ける様に務めている。人員不足が慢性的にある為、気持ちに余裕を持っていない時もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等行い、質の向上につなげて行きたいが、シフトの調整が難しい時がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣に同一法人の事業所があるので、必要に応じて情報交換や、職員の応援をお願いできる環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	バックグラウンドシートを参考にして、本人の生活歴や趣味等を掴み、生活する上で活用できる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望がある時は出来るだけこたえられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーからの相談が多く、他のサービスでの対応が難しい為の相談になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は本人さんに行ってもらう様にしたり、一緒に行う様にして、協働出来るように考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が出来ない中ですが、家族より電話連絡や手紙等下さる方については会話等の中で絆を大切にできるような関係を築けるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	母の日に家族から花を送ってもらった方もいるが、関係が途切れてしまっている方が多くみられる。	ブログを使い、ホーム内の様子を家族や関係者に発信するようになってから、家族からのプレゼント等、家族間の交流が増えてきている。コロナ禍の中、外出ができないので、人との交流に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係はそれぞれ個々に過ごす方もいますが、職員が関係を保てるように係わるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談があった場合は対応する様にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議等でなるべく本人本位になるように、職員間での話し合いの中検討するようにしている。	毎月作成する要望書作りが基本となっている。日常生活でのコミュニケーションの中から、聞き取った要望を書き込み、一枚の要望書で利用者の思いを共有できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートを参考にして、生活歴を理解し、利用者との会話でも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を申し送りや、記録を確認して把握する様にしている。情報共有し、対応するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを職員にしてもらうことで、全職員の意見等情報をもらい反映できるようにしている。プラン更新時は家族への連絡も行い、家族の意見も反映できるようにしている。	家族が介護計画書に要望や思いを入れることができるように、毎回、計画書作成の際には家族から電話等で丁寧に聞き取るようにしている。当然、本人からも日常的に要望は聞き取り、計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな事でも記録に残し、情報共有が出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて協力医療機関との連絡を行い、受診対応や早期対応が出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出が出来ず地域との関わりは少ないが、事業所内での行事を行い対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診により、定期的に診察をしてもらっており、何かあればいつでも相談できる体制がある。かかりつけ医が利用者の状態等しっかり把握してもらっているため、適切な医療につなげやすい。	二週間に一度の定期的な訪問診療を受けている。その際、管理者が利用者の様子について医師に伝え、適切な受診ができるよう支援している。24時間、医師に相談できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人の看護師により、定期的にバイタルチェックをしてもらったり、必要に応じて相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の相談等に関しては、医療機関と連携できるようにしており、早期に退院できる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は入居時に説明させてもらっており、その後も本人の状態に応じて、家族と話をしている。重度化しても出来る範囲で入居を継続出来る様に家族や医師と相談しながら対応している。	法人としては終末期ケアを実施する方針であるが、医療との関係が十分でないため看取りを行うことは少なく、救急搬送することが多い。しかし、できる範囲でかかりつけ医や家族と相談しつつ、終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応のマニュアルや救急隊員に渡す書類等の作成をしたり、社内研修等を行う様にして、対応が出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した訓練を年2回行う様にしている。備蓄品については、不足しているものを購入しているが、置く場所の再検討が必要。地域との協力体制は築けていない	訓練は年に2回実施している。その際、移動に障害ある方にはマットレスを利用して、利用者を2階や3階から1階まで移動させる実践的な訓練も行っている。備蓄品として、水三日分と食料一週間分を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職場内禁止用語等の研修を行い、言葉使いや声掛けについては、勉強を定期的に行い、身につけるようにして、プライバシーを損ねない様に気をつけて対応する様にしている。	一人ひとりの利用者の「バックグラウンドシート」から、呼称について検討したり、言葉がけについても誇りやプライバシーを尊重した言い方について、定期的に研修会を開いて身につける取り組みを行っている。	事業所が今もっとも力を入れている取り組みであり、今後の研修会での勉強成果が、現場でどのように生かされていくのかを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月要望等の確認をさせてもらう様にしており、それ以外でも日常会話から聞き取りを行い、対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定期的な誘導を行う時もあるが、それ以外では出来るだけ一人ひとり自由に過ごせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人に選んでもらえる様にしたり、整容は定期的に支援させてもらう様にしている。要望に応えられていない時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューが決まっているので、メニューを考える事は出来ないが、準備や片づけを一緒に行ったり、おやつ作りを一緒に行う様にしている。	材料は業者から送られてきたものであるが、調理はホームの職員が行うので、職員により味付けも変わり、その違いを楽しみにしている。お菓子作りでは、メニュー選択も調理にも利用者が参加できるので楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士が考えたメニューなので、保てていると思う。水分量も確保できるように声掛け等行い対応している。必要に応じて、トロミ剤等の使用をさせてもらい、利用者の状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや見守り・介助等により、口腔ケアが行える様にしている。週2回(火曜と土曜)に義歯の方はポリドントをさせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じて、時間を決めての声掛けや誘導を行っている。	定期的な誘導以外にも、その日の水分摂取量や気温等に考慮してトイレ誘導している。オムツ使用の方にもトイレでの排泄誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立している方の把握が難しい時があるが、歩行運動や、食事・水分量等の確認、薬の調整等を行う様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴時間はなるべく希望に添えるようにして、入浴時に会話をしながら楽しく入ってもらえる様にしている。	入浴日は、入浴担当者が一日かけて9名の入浴をゆっくりと行っている。拒否される方には時間をおいて、タイミングを見計らいながら入浴の誘導を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適宜、居室内の温度管理を行い、利用者によってはテレビを見て過ごせる様に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	きちんと服用できるように服薬時の確認や誤薬が無いようにセット時にダブルチェックを行う様にしている。必要に応じて、先生に相談を行い、薬が変更される時は情報共有し、経過観察が出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の意向を確認して、日々本人が行える様に提供する様にしている。(塗り絵やカラオケ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	室外の空気感や季節感を味わって頂くために、朝のゴミ出しや不定期ではあるが、屋上へ散歩に行く等の支援をしている。	コロナ禍のため法人の方針で外出できないが、屋上での散歩や敷地内での散歩には積極的に声掛けし、出るように働きかけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事が出来ないので、使う事もない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話を掛けてきてくれる家族さんがいたり、プレゼント等をもらった時にお礼の連絡をしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい温度に気をつけている。 改装により、廊下が絨毯張りになった為、不自由を感じられている利用者の方もいる。	自由に動くことができる環境整備に努めている。ソファは壁側に配置し、歩行の妨げにならないようにしている。十分な明るさと清潔感ある気持ち良い空間となっており、利用者は思い思いの場所で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや椅子等で思い思いに過ごせる様にしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内での事故防止の為に行動しやすいように片づけをさせてもらったり、居室が分からない方もいるので、ドアに名前を貼らせてもらい対応している。	各居室にはトイレと洗面台が備え付けられており、プライバシーが尊重されている。木目調の部屋で落ち着いた空間で、自宅から持ち込まれたタンスやテレビが歩行の妨げにならないように配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の能力に応じて出来る事や分かることは本人に行ってもらう様にして、出来る事は見守りや声掛けをさせてもらいながら行っている。		